



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2016-2017年度 第28週報 No. 1964 2017年(平成29年) 2月3日 第1964回 例会記録 2月10日発行

本日〈2月10日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「我等の生業」
- ◆ 献 立 海鮮丼御膳
- ◆ 卓 話 「ドローンの有効性と今後について」
一般社団法人日本 UAS 産業振興協議会 認定スクール講師
依田 健一 様
(紹介者 天野 公史 会員)

<< 本日の BGM >>
アルバム 「Naturally / Sawako Hyodo」



PHOTO 加野亮一 会員

司 会 白鳥 厚夫 副幹事

点 鐘 植田 清司 会長

斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
ソングリーダー 河野 明光 会員

四つのテスト 田中龍太郎 職業奉仕委員
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 ガンスフ ゲレル 様 (米山奨学生)

特別行事

◆ 米山奨学金贈呈



米山奨学生 ガンスフ ゲレル 様

2016-2017年度 RI 会長 ジョン F. ジャーム



第2590地区 ガバナー 高良 明

会 長 植田 清司	会 計 白井 康夫
会長エレクト 矢野 修二	副 会 計 河野 明光
副 会 長 西山 潔	S A A 田中 龍太郎
副 会 長 伊東 英紀	副 S A A 茂木 知子
幹 事 小山市 康	副 S A A 吉田 隆男
副 幹 事 白鳥 厚夫	クラブ会報 加野 亮一

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和 51 年 5 月 29 日

誕生日祝

山田 正憲 会員 (2月9日)

**会長報告**

植田 清司 会長

- ・1月度定例理事会報告

幹事報告

小山 市康 幹事

- ・次週、例会終了後に2月度定例理事会を開催致します。
- ・本日、米山寄付とR財団寄付の領収書をボックスへ配布しております。確定申告の際に必要となりますので、ご確認をお願い致します。

委員会報告

雑誌委員会 委員 長井 章

2017年2月号の「ロータリーの友」の紹介をさせていただきます。
 #VOL. 65 No. 2でまず興味深かった記事は、横組みの35ページガバナターのページ 第2570地区前嶋ガバナターの投稿、「クラブとは、例会とは」です。ふと「クラブ」について何もわかっていないことに気づき、クラブとはなんだろう、クラブの本質とはなんだろう、と調べてみました。クラブとは会員制の集まりで共通の趣味・興味・目的を持つ仲間が定期的に集まって形成する団体である。以下(略)・・・とクラブの根源について興味深い投稿をされています。

次に、縦組みの55ページ ロータリーアットワークの「バリアフリーダイビング支援事業を沖縄で開催」京都南RCの投稿です。特別な機材を装着し、インストラクターの介助のもと、障害のある人がダイビングを体験することで、新たな喜びと生きがいを感じ新たな一歩を踏み出す源となる手助けをしようという素晴らしい試みの紹介です。

素晴らしい記事に、拍手！

国際奉仕委員会 委員 田邊 正彦

4月18日～20日の2泊3日で、台北滬尾ロータリークラブ公式訪問を予定しております。詳細が決まりましたらご案内申し上げます。大勢の参加を宜しくお願い致します。

出席報告

岡部雄一郎 出席委員

会員総数	50名	(30+20)名	
出席会員数	29名	(22+7)名	
出席率	78.38%		
ゲスト	1名	ビジター	0名
前回補正後	86.36%	前々回補正後	88.10%

スマイルボックス

茂木 知子 副SAA

山田正憲君 ①誕生日をありがとうございます。②ゲレルさん、卓話頑張ってます！！③昨日の第3テーブルミーティング参加の皆様、お疲れ様でした。横溝マスター、田邊副マスター、美味しい料理をありがとうございました。

植田清司君 ①ゲレルさん、ようこそいらっしゃいました。卓話、楽しみにしています。②昨日のテーブルミーティング、とても和やかなひと時を過ごさせて頂きました。横溝テーブルマスター、田邊副マスター、お疲れ様でした。

田邊正彦君 昨日、第3テーブルミーティング開催。横溝さん、役員の皆様、青柳さん、河野さん、富居さん、テーブルメンバーの皆様、ご苦労様でした。楽しい一夜でした。

鴻 義久君 昨日の第3テーブルミーティング 横溝マスター、田邊サブマスター、そして佐藤さん、お世話になりました。

山本 登君 最近休みがち。申し訳ありません。

伊東英紀君 ガンスフ・ゲレルさん、本日の卓話、楽しみにしています。

河野明光君 ①第3テーブルミーティングでは、横溝マスター、田邊副マスター、ご苦労様でした。少し飲みすぎました。②ガンスフ・ゲレルさん、卓話楽しみにしています。

加藤仁昭君 昨日の第3テーブルミーティング 横溝マスター、田邊副マスター、お世話になりました。楽しい会でした。

天野公史君 横溝マスター、田邊サブマスター、昨日のテーブルミーティング、ありがとうございました。地下にはシミュレーションゴルフの店があるのですね。ビックリ！！

横溝 亘君 昨日の第3テーブルミーティングに出席頂きました皆様、お疲れ様でした。皆様のご協力でも楽しい会となりました。佐藤さん、会場の手配ありがとうございました。

白鳥厚夫君 ①昨日の第3テーブルミーティング 横溝さん、田邊さん、料理の和食と同じあっさり味で良かったです。②ガンスフ・ゲレルさん、卓話、楽しみにしています。③ロータリーみなとみらいチャリティーマラソンの選手、友添さん、但野さん、岡部さん、古澤さん、11日10時ごろにハーフマラソンスタート場所にお集まり下さい。

2月3日	11件	27,000円
本年度累計		1,167,188円

「自己紹介と母国紹介」

米山奨学生 ガンスフ ゲレル 様
(紹介者 茂木 知子 会員)



米山奨学生のゲレルです。今日はいつもとは違う席から失礼します。

それでは、自分の母国モンゴルと自己紹介というテーマで卓話したいと思います。

モンゴルは中国とロシアの2つの大国に挟まれています。面積は日本の4倍くらいで、人口は300万です。21県ありまして、真ん中の中央県に首都ウランバートルがあります。首都ウランバートルは、人口の半分くらいが集まっている大都市です。モンゴルは、ウランバートル市に人がたくさん集まっている為、ウランバートル市は人口密度が高くなり、交通渋滞や、冬になると大気汚染も大きな問題となります。

気候は、1年の平均温度は0度近くで、一番寒い首都とも言われています。冬の寒い時期に家を温めるものとして使われているのが石炭です。石炭を燃やすので、冬のウランバートルは100m先が見えないくらい煙でいっぱいになります。

モンゴルの伝統的な服をデールと言います。祭りの時、よく着ます。伝統的な2つの大きい祭りがありまして、1つ目は2月にある旧正月と、もう一つは7月にあるナーダム祭です。モンゴルへ観光に行かれる方には7月をおすすめします。

また、伝統的な芸として様々なものがありますが、一番おすすめするのは馬頭琴です。馬頭琴は馬の頭の形の楽器です。

最後に、自己紹介をします。私は首都ウランバートル市に生まれ、育ちました。兄弟4人の長女です。小さい時から勉強が好きだったので新モンゴル高等学校という日本式の高校に進学することができ、そのことがきっかけで今、日本に留学することができました。高校を卒業後に山形大学の工学部に入学でき、山形大学卒業後に現在の東工大の修士課程で続けて勉強しています。

あと、1ヶ月もない学生生活ですが、様々なことを学び、自立できたと思います。これまで自分の思う道に進むことに対し、暖かく見守り、支援してくださった両親と家族、奨学金を下さった皆様に深く感謝します。これから、新社会人生活も頑張っていきたいです。

ロータリーニュース

教師を育てる

キャロライン・ジョンソンさん(米国メイン州、ヤーマウス・ロータリークラブ所属)は、グアテマラ中部の山岳部で出会った小学1年の担任教師から聞いた言葉にショックを受けました。

この教師は、「グアテマラ識字率向上プロジェクト」に参加する以前、生徒たちが読み方を覚えるのは「無理だと思っていた」と言うのです。「その教師はこう言いました。“1日授業をしなくて済むし、本がもらえ、おいしいランチも出ると聞いたので喜んで研修に参加したけど、心の中ではまったく無駄な試みだと思っていた”、と」。

このプロジェクトでは、この教師をはじめとする100人以上が、3カ月にわたり研修を受講。まる暗記や書き取りではなく、子どもの思考力を高める授業のメソッドを学びました。

ジョンソンさんはこう続けます。「その教師は、生徒50人中45人が読み方を覚え、2年生に進学できたと興奮気味に語りました。参加した教師の90パーセントが、研修の効果を確信するようになりました。教師になってよかったとあらためて実感し、今では何かを変えられると信じて教壇に立っています」

これまで数十年、識字率向上の取り組みといえば、「就学を妨げる要因をなくす」「教材を提供する」など、子どもたちが学校に通うための支援が中心でした。しかし今、専門家の多くは「それでは不十分」と指摘します。生徒の学力を伸ばすには、まず授業で教える側の力を伸ばす必要があるのです。

通学率よりも学習成果を重視

このグアテマラでのプロジェクトや「ネパール教員研修イノベーション(NTTI)」など、ロータリーのプロジェクトは「教える力」を高めることで、子どもたちの読む力を育てています。

教員への支援に力を入れているのはロータリーだけではありません。国連や米国国際開発庁(USAID)も、教師への援助を重視した取り組みを行っています。識字能力の向上は、より良い生活を送るための条件であり、「極度の貧困を削減する」という大きな目標に向けた活動の一環でもあるからです。

世界銀行のリードエコノミスト、クエンティン・ウォドンさんは、専門家として、またキャピトルヒル・ロータリークラブ(ワシントンDC)のメンバーとして、教育プロジェクトを研究してきました。学習の成果を改善したいなら教師を抜いて考えることはできないと、ウォドンさんは力説します。

「子どもたちの学習効果を上げるには、教師の存在に幅広く注目すること」とウォドンさん。教師への研修は、世界銀行が定めた8つの主要目標のひとつでもあります(ほかの目標は「教師への期待を明確にする」「優秀な候補者を集める」「教師のスキルを生徒のニーズに合わせる」「教師の基本理念を掲げる」「モニタリングする」「継続的にサポートする」「モチベーションを高める」)。

ウォドンさんのクラブは、ネパールのカトマンズ・ロータリークラブと協力して、授業改革に力を入れているNTTIと非政府

団体PHASEを支援しています。これまで授業といえば、生徒たちはただ受け身で座っているだけ。しかし、このプロジェクトで授業の主体となるのは生徒たちです。「これまで慣れてきた授業の方法を変えることは簡単ではないが、教え方を変えようという考え方は徐々に浸透しつつある」とウォドンさん。

こんなエピソードもあります。以前、暗記法ばかりに頼り、黒板の文字を生徒に書き写させるばかりの教師がいました。しかし、研修に参加した後、この教師は生徒が活発に参加できる授業に切り替えました。例えば、生きものとうでないものを並べ、その違いを生徒が説明したり、ディスカッションしたりすることもありました。そのような授業の後には、全員が外に出て、学んだことを自然の中で体験する演習もしました。この「自然学習」のとき、ある生徒が近寄ってきて、生きたアリを教師の手の上に乗せ、こう尋ねました。「これは生きものだよね」。教師がうなずくと、生徒はそのアリを押しつぶし、また尋ねました。「まだ生きもの?」。ふいをつかれた教師は、ほかの生徒たちに「みんなはどう思う?」と質問。その後は活発な議論がはじまったそうです。

ほかの教師も、生徒参加型の授業の効果を実感したと口をそろえます。「授業のやり方ががらりと変わった。研修でいろいろなメソッドを学ぶことができた」と、中学教師のゴマ・カードさんは話します。



プログラムを卒業した教師には修了証が贈られます。生徒の学力向上で最も大切なのが、教師の質です。

グアテマラでのプロジェクト

キャロライン・ジョンソンさんがカリキュラム作成に携わったグアテマラ識字率向上プロジェクトも、成功している活動のひとつです。活動自体は20年前に始まったもので、当初はグアテマラ山岳部の学校にパソコン学習室をつくり、中学生に教科書を配るだけでした。しかし、次第に教師への指導に力を入れるようになりました。

2006年、地区の識字率向上プロジェクトの実施地を探していたジョンソンさんは、この山岳部を訪れ、生徒たちの読む力が深刻に欠如していることを知りました。この問題を解決できると考えた彼女は、小学校校長の仕事を辞めてこの活動に打ち込むことに。現在はこのプロジェクトのテクニカルアドバイザーを務めています。

「私自身、小学校の教師でしたから、中学1年から読みを習いはじめるのでは遅すぎるとわかっていました。読みは小学1

年からでなければなりません」その後1年間、数回グアテマラを訪れ、現地の非営利団体、教師、住民、学校関係者と会いました。また、世界各地で広く用いられている「集中言語学習法」を基にカリキュラムをつくり、グアテマラ国内で有名な非営利団体 Cooperative for Education (CoEd) と提携しました。地元ロータリー会員の援助の下、CoEdが採用した講師5人が、約150人の小学校教師を対象とする2日間の研修を3回(1月、4月、7月)実施。授業指導や助言も行いました。

このプロジェクトでは、現在も教科書やパソコン学習室の設備を提供しつづけています。パソコン学習室では、生徒たちが週に1時間、Windows、Word、Excelといった標準ビジネスソフトを自由に使えます。利用料は学校が集め、CoEdによる管理の下、教科書やパソコン機器が古くなったときの新品購入代に使われています。さらに毎年、ロータリー財団から新たなグローバル補助金が支給され、40ほどの小学校と12の中学校に活動が広がっています。こうした活動はいずれも、地元リーダー、親、教師、学校関係者との話し合いに基づいて始められます。

これまで、グアテマラ、米国、カナダ、ケイマン諸島、英国、日本の480以上のクラブから支援が寄せられており、毎年、約50人のロータリーボランティアが教材を届けたり、授業を見学したりしています。

研修を修了した教師のほとんどが、学んだことを実践して教育の質を改善しています。「成果が絶対かという、そうではありません。しかし、大半の教師が学んだアプローチを実際に生かしています」とジョンソンさんは言います。



ネパール教員研修イノベーション (NTTI) で批判的思考力を養う方法を学ぶ教師。

次回〈2月17日〉の予定

テーマ 『幼稚園』と『保育園』と『認定こども園』

学校法人横浜アイリス学園 園長 木元 茂 様

(紹介者 石川 正三 会員)